

所属	文	身分	教授
氏名	若林 茂則		
NAME	WAKABAYASHI, Shigenori		

1. 研究課題

(和文) 日本語話者による英語の動詞項構造の習得

(英文) The acquisition of the argument structures of English verbs by Japanese speakers

2. 研究期間

1年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

(和文)

動詞（とその中間投射）がその項に意味役割を割り当てることは普遍的であると考えられる一方で、近年の動詞の統語・意味研究からは、言語間・動詞間の違いが明らかになってきている。本研究では、日本語を母語とする英語学習者による動詞の項構造の習得について、特に英語の補文標識句 *that* を補部にとる動詞の項に関するデータに基づいて、第二言語学習者の言語習得・知識・使用の研究に寄与することを目的としていた。*that* 節（例：I think [that this is correct]）は、直観的には日本語のト節（例：「これが正しいと」思う。）を、補文標識として取る動詞に類似していることから、この二つの動詞の項構造を基に分類を行った。その結果、日本語においては、英語の *think* などと同様に項を2つしかとらない場合のほかに、ト節と同時に、ヲ格名詞句を補部にとる場合（例：うそを言うなと太郎を責めた。）やニ格名詞句をとる場合（例：愛していると花子に告げた。）あるいは、両方をとる場合（例、今度旅行に連れて行くと花子に嘘を言った。）があり、当初想定していたよりも、日英語の対応関係が複雑であることが明らかになった。これらがどのような現象であるかについては、かなり慎重な議論が必要であり、国文法や日本語文法の研究成果を活用する必要があるため、途中から、言語習得研究の基盤としての記述研究に、研究の方向性をシフトした。

(英文) Verbs (and their intermediate projections) assign theta-roles to their arguments. This study had aimed to reveal how Japanese speaking learners acquire argument structures of English verbs, especially those that take CP complements headed by *that*. In order to reveal L1 influence, the examination of the behavior of Japanese CP headed by *to* was carried out, and it was found that the correspondence between these two CPs are by far more complex than expected, so the focus of this study shifted to descriptive study of the distribution of Japanese CP headed by *to* and its collocation.

